

「同じ字」「違う字」を考える — 字種・字体・字形 —

高田 智和
(国立国語研究所)

概要

漢字の「形」を分析するための概念

- 「字種」「字体」「字形」の考え方
- 「異体字」の考え方

※ 言語学レクチャーシリーズ Vol.11 「漢字の字体・異体字」

<https://www.youtube.com/watch?v=aiazoooid3ql>

注意点 「字体」という用語

- 日本の文字研究（国語学）で言う「字体」とは、「文字の骨組み」や抽象的な文字の形を指す概念で、篆書・隸書・楷書などを指すものではない。（篆書・隸書・楷書などは「書体」と言う。）
- 中国語で言う「字体」は、篆書・隸書・楷書などを表す。

「字種」 「字体」 「字形」 の考え方

「字種」が異なる

言語学レクチャーシリーズ
国立国語研究所

言／語／学／国／立／研／究／所

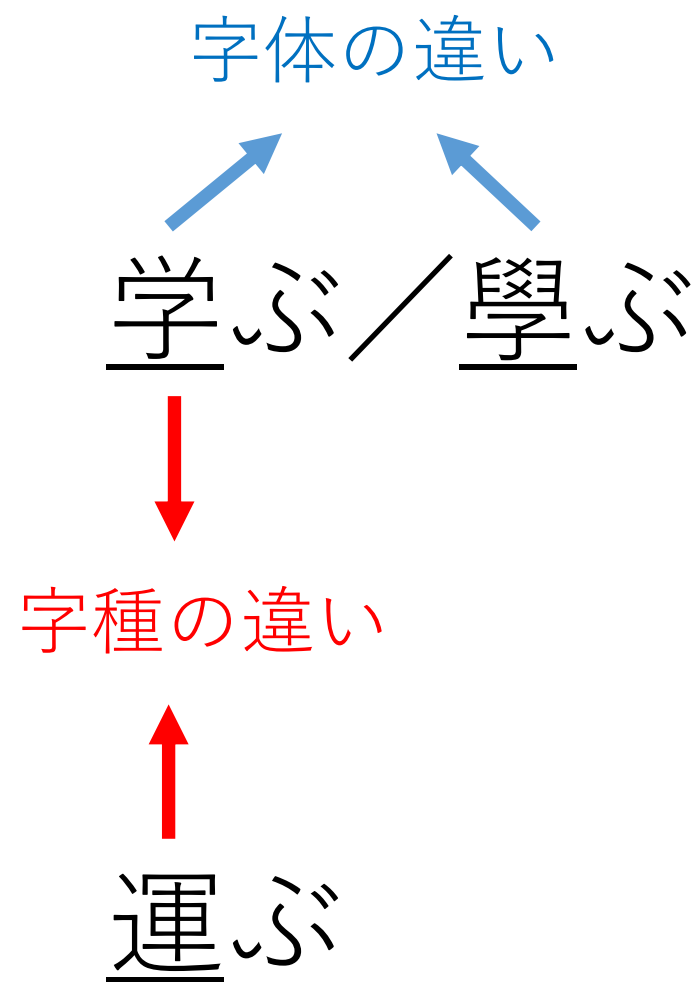
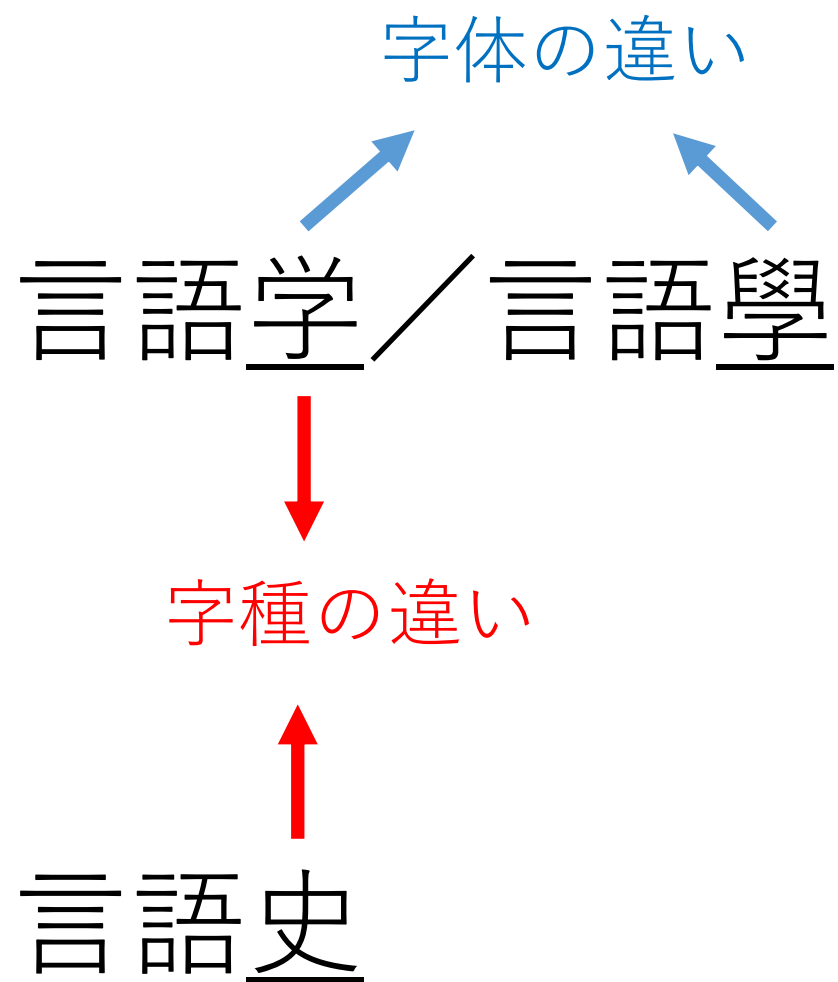
- これらの漢字は、字音・字義が互いに異なる。

「字体」が異なる

言語学／言語學

学ぶ／學ぶ

- 「学」あるいは「學」を使うべきところであれば、どちらも使われる可能性がある。
- どちらを使ったとしても、発音が変わったり、意味が損なわれることはない。
- 字音・字義が変わらず、漢字の形だけが変わる。



「字形」が異なる

学 学 学 学 学 学

- 具体的に実現された文字の形
- いつも同じ形で実現されるわけではない。
- しかし「同じ字の形」だと普段はとらえている。

「字形」と「字体」

学 学 学 学 学

學 學 學 學 學

𡥉 𡥉 𡥉 𡥉 𡥉

違う字形
同じ字体

「音声」と「音韻」

ハ・ヘ・ホの子音 無声声門摩擦音[h]

ヒの子音 無声硬口蓋摩擦音[ç]

フの子音 無声両唇摩擦音[ɸ]

具体的な音声は異なるが、同じハ行の子音/h/だにとらえられている。

漢字の形の階層

字形

学学学 **学学**...

學學學 **學學**...

𠬞𠬞𠬞 **𠬞𠬞**...

字体

〔学〕

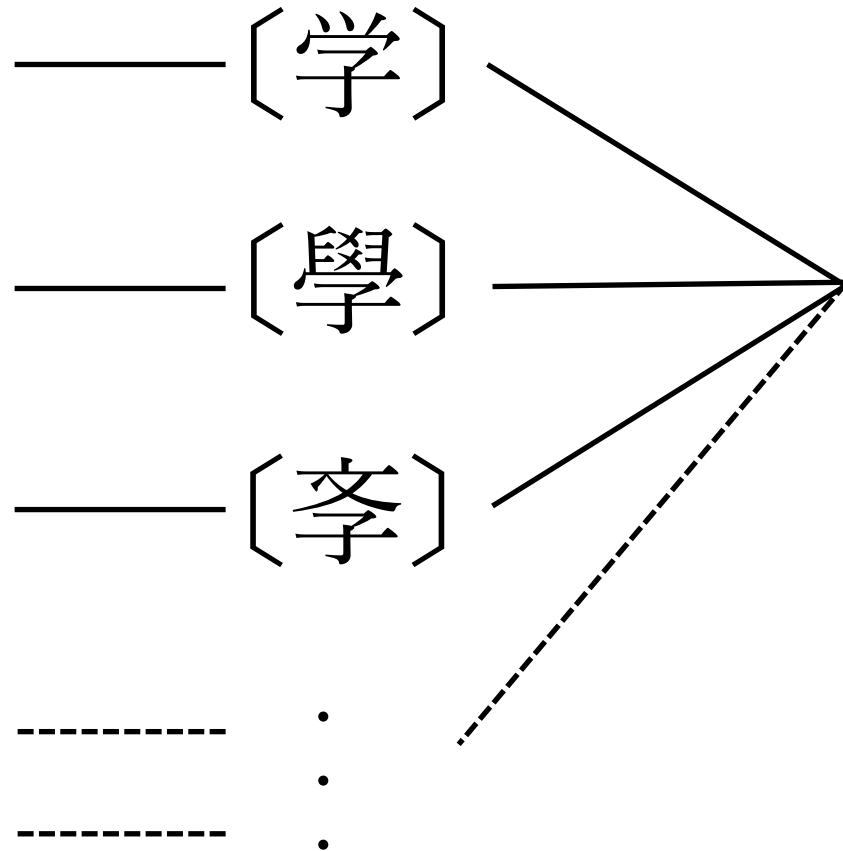
〔學〕

〔𠬞〕

⋮

字種

《学》



「同じ字」「違う字」

- 字種レベル 同じ／違う

学と學 学と会

- 字体レベル 同じ／違う 同一字種内

学と𪛗 学と學

- 字形レベル 同じ／違う 同一字種内・同一字体内

学と𪛗 学と𪛗

「異体字」の考え方

「異体字」のとりえ方

- 規範的に正統な字体を「正字」
- 「正字」と異なる字体を一括して「異体字」と総称する。
- 規範の拠り所は「常用漢字表」、漢和辞典、『康熙字典』
- 「異体字」には「俗字」「別体」「本字」「古字」などの名称が与えられている。

高 正字

高 異体字

「常用漢字表」の規範

- 「常用漢字表」（1981年内閣告示、2010年改定）は現代日本の漢字使用の規範を示している。（2,136字種）
- 「常用漢字表」の掲出字体は現代日本の「正字」に相当する。

権（權）	ケン ゴン	権利，権威，人権 権化，権現
高	コウ たかい たか たかまる	高低，高級，最高 高い，高台，高ぶる 高，売上高 高まる，高まり

「常用漢字表」の新字体と旧字体

- 新字体 「当用漢字表」（1946年）・「当用漢字字体表」（1949年）や、それに代わる「常用漢字表」（1981年）といった内閣告示・訓令で決められた正式な字体。
- 旧字体 新字体が正式な字体と決められる前の字体。『康熙字典』（1716年）の掲出字体と見なされることが多い。

常用漢字表	康熙字典（和刻本）
来（來）	
気（氣）	

「正字／異体字」は変わる（1）

- 「正字」「異体字」の区分けは、時代と地域によって変わる。

權 権 权

「正字／異体字」は変わる (2)

	戦前の日本・中国	現代の日本	現代の中国
正字相当	權	権 (新字体) 權 (旧字体)	权 (簡体字) 權 (繁体字)
異体字相当	権 权	权	権

「正字／異体字」は変わる (3)

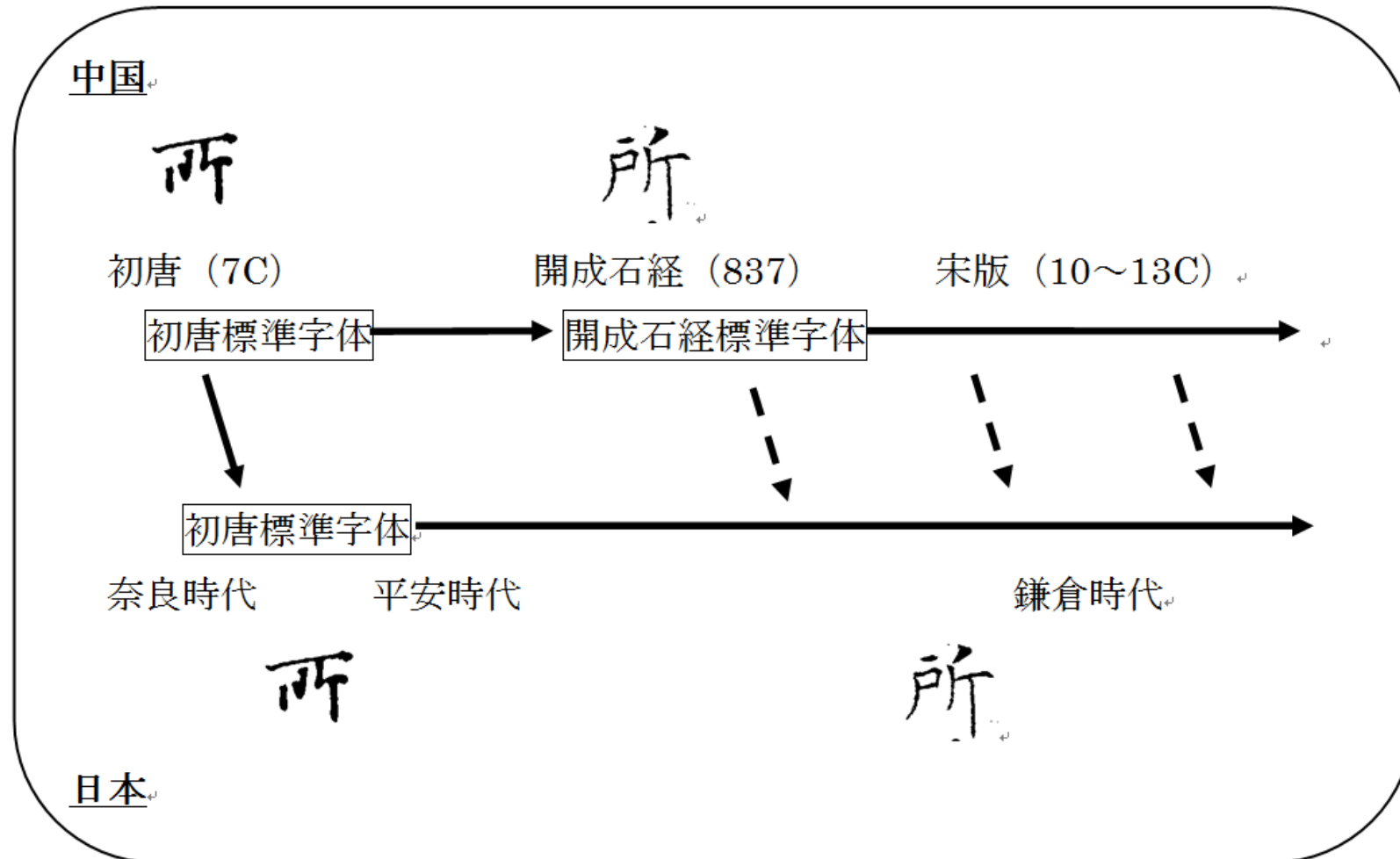
	戦前の日本・中国	現代の日本	現代の中国
權	正字	旧字体	繁体字
権	略字・俗字	新字体	日本通用字体
权	略字・俗字	中国簡体字	簡体字

「正字／異体字」は変わる (3)

- 「正字／異体字」の区分けは、時代と地域によって変わる。
- 「正字／異体字」は固定されたものではない。
- 「俗字」「別体」「本字」「古字」など、ある字体に与えられた名称は、ある時代・ある地域の価値観による。

「正字／異体字」は変わる（4）

- 標準字体の変遷（石塚晴通（1999）「漢字字体の日本的標準」，『国語と国文学』76-6 による）

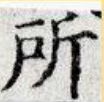
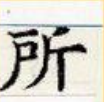


漢字字体規範史データセットの「所」

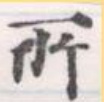
中国写本

S81	S2067	P2179	P2160	P2413	賢劫經二	P2334	宮廷今西	宮廷守屋	P2195	S2577	漢書揚雄	華嚴守屋	S2423	正四分20	正毘170	正毘178	京博大品	S5309	
																			
54例	64例	59例	49例	10例	83例	49例	33例	60例	36例	44例	15例	48例	47例	97例	246例	11例	60例	15例	121例

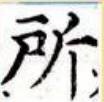
中国版本

開成李經	開成論語	開成周易	通典卷一	東禪毘婆	齊民要術	京博金般	開元神足	華嚴孔目	法藏和尚	西夏法華	光武帝紀	
												
9例	46例	100例	32例	69例	9例	54例	18例	84例	178例	31例	89例	23例

日本写本

金剛小川	和銅250	弥勒上生	五一統高	正四分16	金剛大教	岩崎紀24	院政大教	圖書紀24	仏説大教	最上秘密	華嚴信種	教行信証	鴨脚紀2	兼方紀2	兼右紀24
															
43例	51例	12例	28例	97例	12例	34例	18例	33例	28例	6例	37例	9例	30例	45例	35例

日本版本

成唯識10	春日般若	葉師功德	勅版紀2	慶長紀2	寛文紀24	寛文紀2
						
130例	96例	47例	46例	46例	35例	46例

漢字字体規範史データセット

- 北海道大学文学部石塚晴通研究室
- 漢字圏の標準的な文献を選定（漢籍・仏典・国書等の典籍）
- 奈良時代から江戸時代初期にかけての日本資料、南北朝時代から南宋までの中国資料、新羅・高麗時代の韓国資料
- 典籍64点、総用例数約40 万字（紙の情報カードで蓄積）
- 1990年代後半からデジタル化着手
- 2005年から検索サービス開始（2025年は公開20周年）
- 2018年からデータセット公開開始（CC BY-SA）
- <https://www.hng-data.org/search.ja.html>
- 現在、漢字字体規範史データセット保存会によって管理・運営

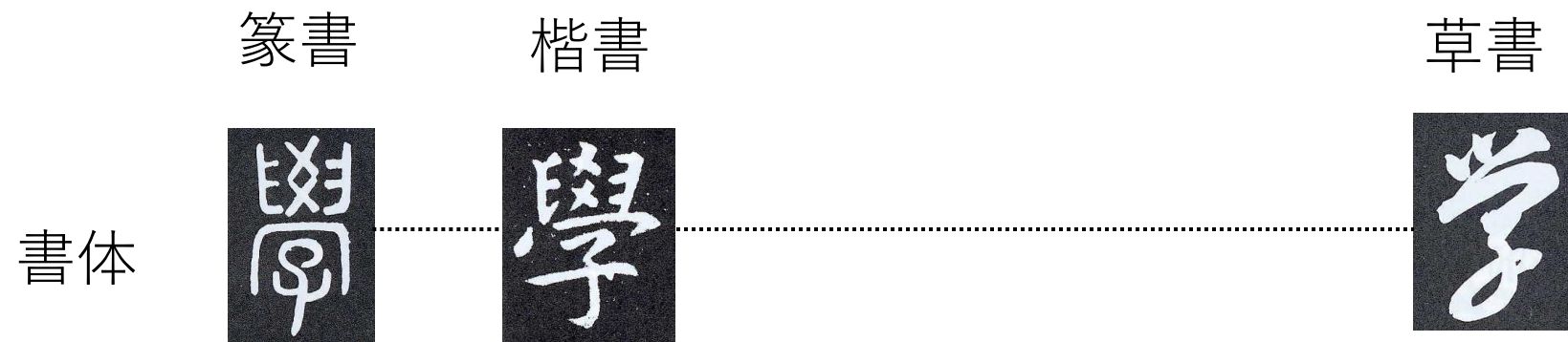
異体字の分類

- 「発生」が同一か否か
- 派生関係の異体字
- 通用関係の異体字

派生関係の異体字（1）

- 点画の増減・省略・付加、部分字体の配置の変更などによって生じる。
- 「省文」「略体」など

派生関係の異体字 (2)



明朝体

學 學 學 学

亨 亨

明朝体のデザイン

通用関係の異体字（1）

万 西域では萬の数を表わすに卍を用いる。
万の字は其の卍の変形である。

萬 象形。さそりの形に象る。又、仮借して、
数字の万の意に用いる。

（大漢和辞典）

通用関係の異体字 (2)

- 通用関係の「異体字」の成立
- ① 字音を共有（類音字）→ 代用 → 字義も共有 → 「異体字」
- ② 字音と字義を共有（類音類義字）→ 代用 → 「異体字」

同音の漢字による代用（1）

- 「当用漢字表」（1946年内閣告示）による漢字制限
交叉 → 交差
- 通用関係の「異体字」に見える。
- 「差」に置き換えられない「叉」がある。
叉焼 → 差焼 夜叉 → 夜差
- 「叉」に置き換えられない「差」がある。
差分 → 叉分 微差 → 微叉
- 「叉」と「差」は同音の別字種である（異体字関係ではない）。

同音の漢字による代用 (2)

- 2010年の常用漢字表改定により、字種が追加され、必ずしも代用の必要がなくなった単語
 - 臆測 → 憶測
 - 禁錮 → 禁固
 - 肝腎 → 肝心
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（出版サブコーパス）の出現数
 - 臆測 15 憶測 66
 - 禁錮 34 禁固 29
 - 肝腎 42 肝心 419
- これらも異体字関係ではない。

おわりに

- 漢字の「形」を分析するための概念
- 文字コード標準と「字種」「字体」「字形」との関係

字種	字体	字形
なし	ISO/IEC 10646 Unicode JIS X 0208	IVS

「字体」「異体字」に関する参考文献

- 榎島忠夫 (1975) 「文字体系の構造」, 『計量国語学』 75, pp.13-22, 計量国語学会
- 杉本つとむ (1978) 『杉本つとむ日本語講座1 異体字とは何か』, 桜楓社
- 野村雅昭 (1984) 「同字と別字のあいだ」, 『日本語学』 3-3, pp.23-31、明治書院
- 林大 (1984) 「字体・字形・書体をめぐって」, 『日本語学』 3-3, pp.10-15, 明治書院
- 佐藤稔 (1987) 「異体字」, 『漢字講座3 漢字と日本語』, pp.183-210、明治書院
- 石塚晴通 (1999) 「漢字字体の日本的標準」, 『国語と国文学』 76-6, pp.88-96
- 笹原宏之・横山詔一・エリク=ロング (2003) 『現代日本の異体字—漢字環境学序説—』, 三省堂
- 佐藤栄作 (2013) 『見えない文字と見える文字—文字のかたちを考える—』, 三省堂